

母として女人にょにんの身をば裂ける血に

清まらぬ世はあらじとぞ思ふ

歌 意

長い間、母体で育んだ新しい生命を産むという崇高な業はなんと神秘的なことでしょう。その瞬間の血と愛で社会が浄化されないはずはないと私は信じています。

掲出歌集 『青海波』明治45（1912）年1月  
初出 「新日本」明治44年7月号 題は「悲しき跡」

（晶子33歳）

